行動する知性。
中央大学

学術コミュニケーションの動向

小山憲司（koyama@tamacc.chuo-u.ac.jp）
中央大学文学部

2024年7月8日
令和6年度大学図書館職員長期研修
＠オンライン

目次

項目	時間
学術コミュニケーションとは	20分
学術コミュニケーションと図書館サービス（事例）	15分
学術コミュニケーションと研究活動	20分
学術コミュニケーションにかかる最近の話題	15分
まとめ	5分

学術コミュニケーションとは

- 『図書館情報学用語辞典』第5版
- “Scholarly Communication Toolkit” （米国大学研究図書館協会（Association of College and Research Libraries、ACRL））
- *Scholarly Communication: What Everyone Needs to Know*（2018）

図書館情報学用語辞典（第5版）

学術情報流通（scholarly communication）

- 研究成果である学術雑誌の論文や記事等の学術情報を研究者のコミュニティで共有するプロセス．学術情報の生産者としての著者は，その利用者としての読者でもあり，著者と読者が同じコミュニティの構成員であることも多い．学術情報流通のメディアは，学会協会誌等の会員誌が担っていた．従来，この会員誌は有料で会費や購読費がかかり，かつ形態は冊子であった．しかし近年になり，学術情報はオープンアクセス，電子ジャーナル，機関リポジトリ，イープリントアーカイブを経由する量が急速に増加し，紙から電子へ，郵送からウェブへ，有料から無料へ移行が始まり，様相が変貌しつつある．

（出典：“学術情報流通”．図書館情報学用語辞典．第5版．2013，https://kotobank.jp/word/学術情報流通-2237038，（参照2024-07-07）．）

本科目で注目する箇所

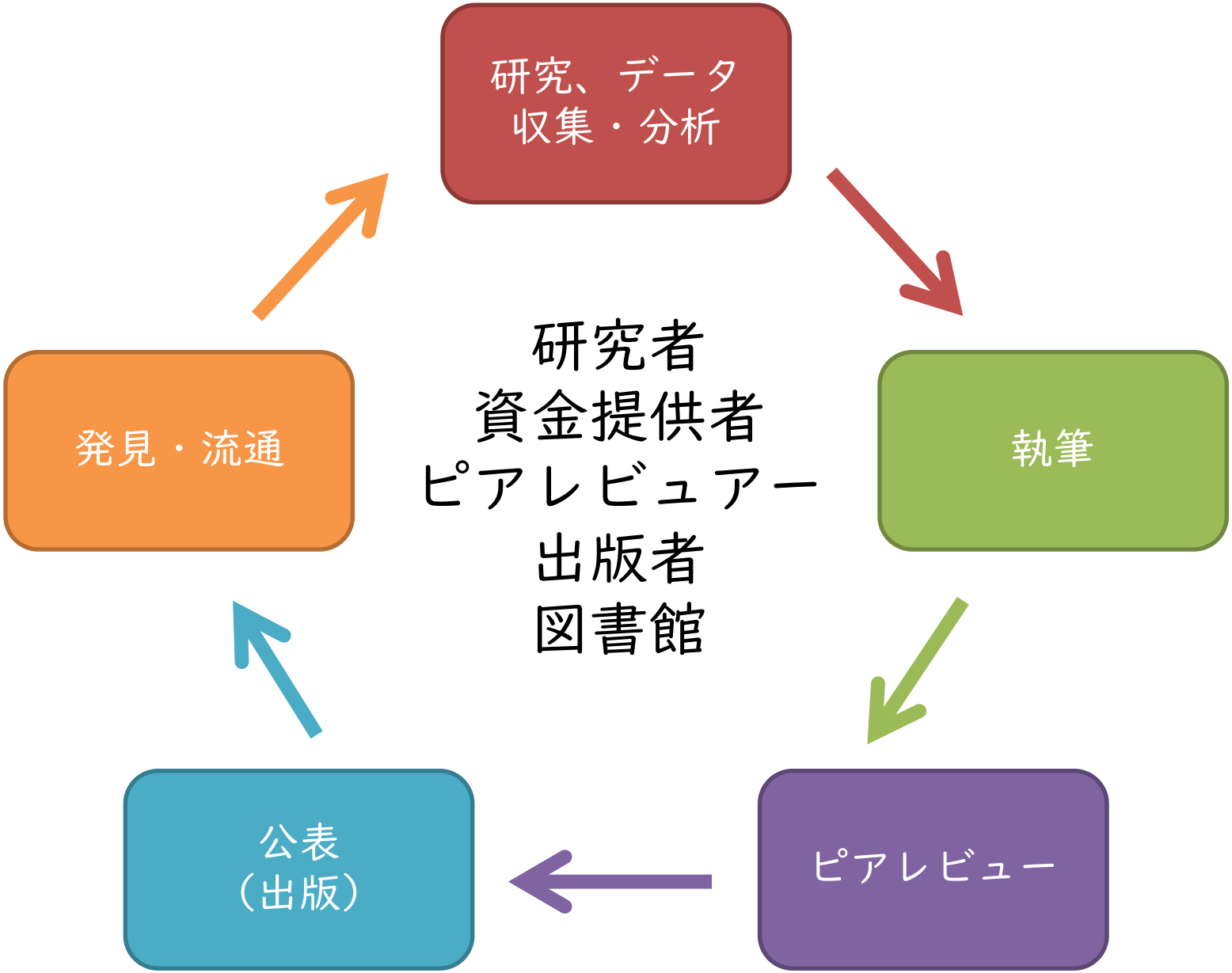
- 共有される「研究成果」とはなにか
- 共有プロセスと研究活動
- 「様相が変貌」の背景や要素にはなにがあるか

“Scholarly Communication Toolkit”

定義

- 研究およびその他の学術的著作物（writings）が創造され、その質が評価され、学術コミュニティに配布され、将来の利用のために保存される制度（system）のこと。この制度には、査読付き雑誌による出版などのフォーマルコミュニケーションと、メーリングリストなどのインフォーマルコミュニケーションの両方が含まれる。

（出典：Association of College and Research Libraries. “Scholarly Communication Toolkit.” 2024-05-22, https://acrl.libguides.com/scholcomm/toolkit, (accessed 2024-07-07).）



（出典：Association of College and Research Libraries. “Scholarly Communication Toolkit.” 2024-05-22, https://acrl.libguides.com/scholcomm/toolkit, (accessed 2024-07-07).）

学術コミュニケーションにおける大学図書館の役割

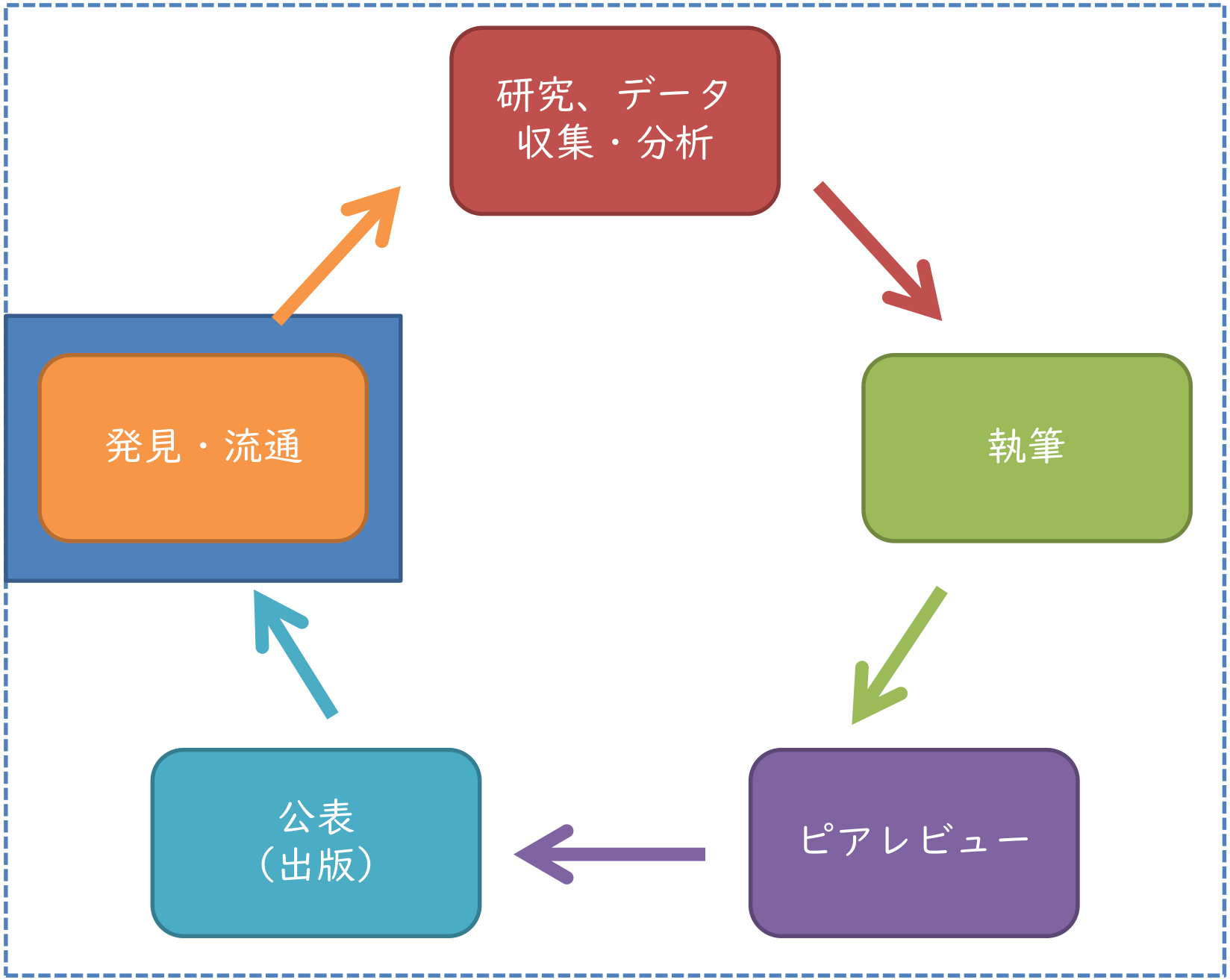
- オープンスカラシップ（学術研究のオープン化）を戦略的に支援し、従来の学術出版の経済的課題に積極的に対応するコレクション構築方針の採択、およびコレクション構築予算の配分見直し
- 購読誌とオープンアクセス誌の両方の評価を支援するツールやスキーマの開発
- 研究者の識別システムの援助、およびオルトメトリクスの利用の促進により、研究者の研究のインパクトを最大化することを通じた研究者への支援
- 図書館による出版プラットフォームの開発およびホスティング
- 研究および教育における資料の保存、アクセス、利用、および発見を促すためのフェアユース権の活用、およびその活用を促す他者への主体的な働きかけ
- 知的財産権に関する研究者への教育、および出版契約の解釈と修正に関する支援
- 学術研究のオープンアクセスに向けたアドボカシー
- 資金提供者のパブリックアクセス義務遵守の円滑化
- 研究機関の研究成果の収集、発表、発見の最大化に資する機関リポジトリの開発と運用

（出典：Association of College and Research Libraries. “Scholarly Communication Toolkit.” 2024-05-22, https://acrl.libguides.com/scholcomm/toolkit, (accessed 2024-07-07).）

Toolkitの目次

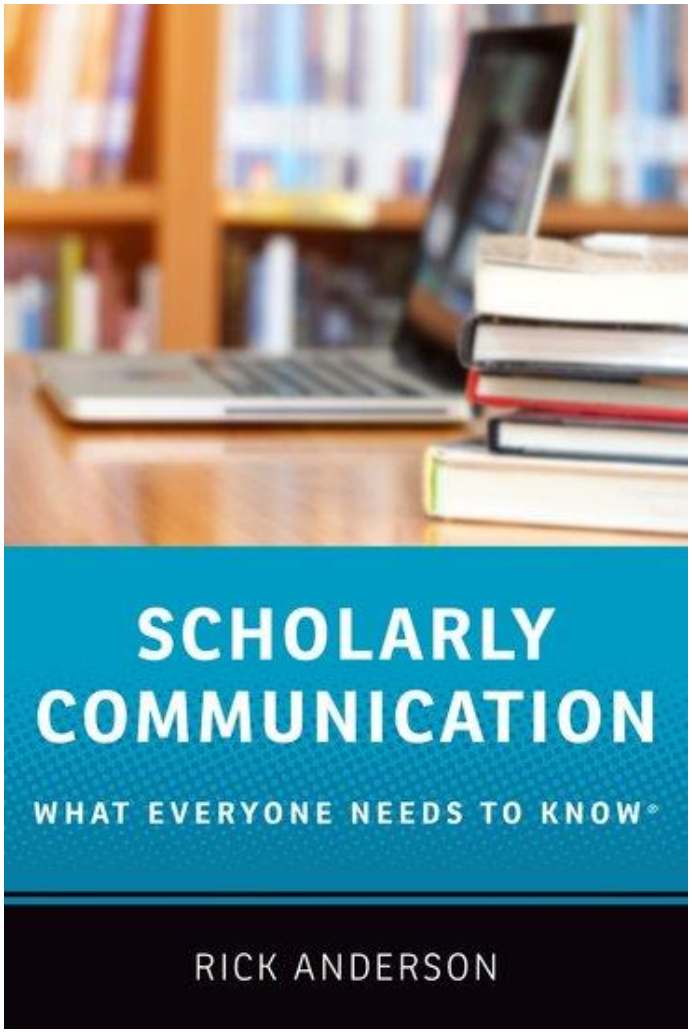
- 学術コミュニケーションの概要
- Toolkitについて
- 多様性と包括性
  - 多様性（Diversity）、公平性（Equity）、包括性（Inclusion）、利用可能性（Accessibility）（DEIA）が交差する学術コミュニケーション
- ニュース
- 学術出版
  - 出版の経済的側面、学術雑誌の評価、研究成果の効果測定、図書館による出版プログラム
- 著作権
  - フェアユース、著者の権利
- 研究成果の利用
  - オープンアクセス方針および出版、公開利用および資金提供者（funder）による義務化、ACRLの方針書
- リポジトリー
- 研究データ管理
- 関連する話題

（出典：Association of College and Research Libraries. “Scholarly Communication Toolkit.” 2024-05-22, https://acrl.libguides.com/scholcomm/toolkit, (accessed 2024-07-07).）



（出典：Association of College and Research Libraries. “Scholarly Communication Toolkit.” 2024-05-22, https://acrl.libguides.com/scholcomm/toolkit, (accessed 2024-07-07).）

Scholarly Communication: What Everyone Needs to Know (2018)



リック・アンダーソン著 ; 宮入暢子訳. 学術コミュニケーション入門 : 知っているようで知らない128の疑問. アドスリー, 丸善出版（発売), 2022.

Scholarly Communication: What Everyone Needs to Know (2018)

定義（1章　定義と歴史）

- 学術コミュニケーションとは、研究成果の著者や創作者が、自分たちの研究活動についてお互いに、また世界の人々と情報共有するさまざまな方法を指す、包括的な用語のようなものである。学術コミュニケーションは、ごく一般的には次のような形をとっている。
- 学術雑誌論文、単行書、研究報告、予稿（プレプリント）、白書、ポジションペーパー、会議論文および発表資料、ポスター、会議録、学位論文、データセット、マルチメディア作品、ブログ

（出典：Anderson, Rick. *Scholarly Communication: What Everyone Needs to Know*. Oxford University Press, 2018.）

本書の目次

- はじめに
- 1章　定義と歴史
- 2章　研究者とは何者か、なぜコミュニケーションするのか
- 3章　学術コミュニケーション市場とはどのようなものか
- 4章　学術出版とはなにか、どのように機能しているか
- 5章　著作権の役割とはなにか
- 6章　図書館の役割とはなにか
- 7章　大学出版局の役割
- 8章　グーグルブックスとハーティトラスト
- 9章　自然科学（STEM）と人文社会科学（HSS）のニーズと実践
- 10章　指標とオルトメトリクス
- 11章　メタデータとその重要性
- 12章　オープンアクセス：　可能性と課題
- 13章　学術コミュニケーションにおける問題および論議
- 14章　学術コミュニケーションの将来

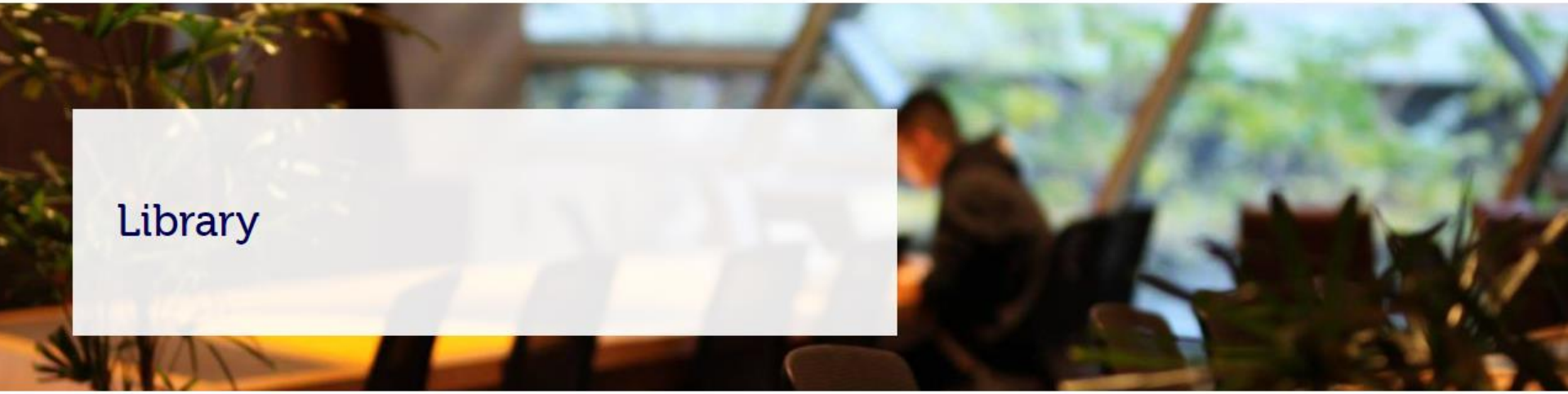
（出典：Anderson, Rick. *Scholarly Communication: What Everyone Needs to Know*. Oxford University Press, 2018.）

目次

項目	時間
学術コミュニケーションとは	20分
学術コミュニケーションと図書館サービス（事例）	15分
学術コミュニケーションと研究活動	20分
学術コミュニケーションにかかる最近の話題	15分
まとめ	5分

RMIT University

- 1887年設立
- キャンパス
  - メルボルン
  - ヴェトナム
- 4学部
  - College of Business and Law
  - College of Design and Social Context
  - STEM College
  - College of Vocational Education
- 学生数　91,544名
  - 学部生　54,422名
  - 大学院生　16,111名
  - その他（学部）　4,355名
  - 高等専門教育生　14,809名
  - その他　1,857名
- スタッフ　5,779.21名(FTE)
  - 教員（高等教育）2,129.83名
  - 教員（専門教育）575.16名
  - 専門職　3,074.12名



Library

Find books, articles and more

LibrarySearch | Databases | Google Scholar | Research Repository | Not sure where to start?

LibrarySearch

Search Library collections

Search

Help us improve

Library support for researchers

Resources, advice and training to support you throughout the research process and help you share, manage and promote your research.

図書館は、研究プロセス全体にわたりみなさんを支援し、みなさんの研究を共有し、管理し、促進する資源、助言、学習の機会を提供します。

Help us improve

文献探索
参照文献の扱い
著作権

Searching, referencing and copyright

Search scholarly literature, manage your references, and navigate copyright requirements.

研究にかかる
文書作成

Research writing

Plan your research proposal, thesis or journal article, write your literature review or publication, and improve your research impact statement.

リポジトリ

Research Repository

Search the Repository, submit your accepted manuscript, increase visibility and impact of your research.

研究データ管理

Research data management

Store, publish and share your research data, mint Digital Object Identifiers (DOIs) for citation purposes. and re-use research data.

オープンリサーチ

Open research

Increase exposure and impact of your publications, comply with grant funding bodies, and access read and publish agreements.

戦略的な
研究成果公開

Strategic publishing

Publish strategically, collaborate for publication, and decide where to publish.

研究者情報と
ORCID

Researcher profiles and ORCID

Create your ORCID profile, and promote research expertise and outputs.

研究評価と
Altmetrics

Research metrics and Altmetrics

Track your citation impact, and evidence research for grants and promotion.

図書館の体制

Director Library Services

- Learning Team
- Teaching and Research Team
- Quality Engagement Team
- Collections Team
- Library Services Team (Vietnam)

目次

項目	時間
学術コミュニケーションとは	20分
学術コミュニケーションと図書館サービス（事例）	15分
学術コミュニケーションと研究活動	20分
学術コミュニケーションにかかる最近の話題	15分
まとめ	5分

学術コミュニケーションと研究活動

- 研究成果と研究対象
- 学術コミュニケーションと研究活動を取り巻く環境の変化

『文部科学省における研究及び開発に関する評価指針』

- 定量的指標による評価方法には限界があり、ピアレビューによる研究内容の質の面での評価を基本とする。その際、数量的な情報・データ等を評価指標として用いる場合には、前述（2.2.1.5.6及び2.2.2.5.2 評価の実施）に述べた観点を踏まえ、慎重な態度が求められる。
- 人文・社会科学の研究は、人類の精神文化や人類・社会に生起する諸々（もろもろ）の現象や問題を対象とし、これを解釈し、意味付けていくという特性を持った学問であり、個人の価値観が評価に反映される部分が大きいという点に配慮する。人文・社会科学の研究の評価においては、例えば、「教養」の形成に資する著書、公開講座、メディア等を通じた様々な成果発信やアウトリーチ活動、漢学や日本学等における索引・目録の作成、日本語希少原典等の外国語への翻訳等、人文・社会科学の特性を踏まえた評価の項目等を充実させていくことが必要である。また、研究を通じた課題解決への貢献を一層推進するため、研究が社会とどのような結節点を持つのかという観点を踏まえて、社会的貢献・領域間連携・グローバル化を目指す研究を積極的に評価するとともに、プログラムの目的等に応じ、実務者との研究成果の普及に向けた協力等についても評価の視点として適切に取り入れられることが重要である。

（出典：文部科学大臣決定．“文部科学省における研究及び開発に関する評価指針”．文部科学省，2017-04-01，https://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/detail/__icsFiles/afieldfile/2017/05/02/1314492_1.pdf，（参照2024-07-07）.）

ERA（Excellence in Research for Australia）2023

従来型の研究成果	非従来型の研究成果
• 査読付き論文 • 研究図書 • 研究図書の章 • 査読付き会議論文	• オリジナルの創作物 • 創作性のある実演 • 記録・表現された創作物 • 企画・開催した公的な展示やイベント • 外部機関からの依頼による研究報告 • ポートフォリオ（一連の研究成果）

（出典：“ERA 2023 Submission Guidelines.” Australian Research Council, 2022, https://www.arc.gov.au/sites/default/files/2022-07/era_2023_submission_guidelines_0.pdf, (accessed 2024-07-07).）

REF（Research Excellence Framework）2021

図書（の一部）

- A 著書
- B 編著書
- C 図書の章
- R 学術版（Scholarly edition）

雑誌論文

- D 雑誌論文
- E 会議論文
- U ワーキングペーパー

有形の作品

- L 作品
- P 装置、製品

展示、実演

- M 展示
- I 実演

その他のドキュメント

- F 特許
- J 楽曲
- K デザイン
- N 外部機関の依頼による研究報告
- O 外部機関の依頼による機密報告

デジタル作品

- G ソフトウェア
- H ウェブサイトのコンテンツ
- Q デジタルまたは視覚メディア
- S 研究データセット、データベース

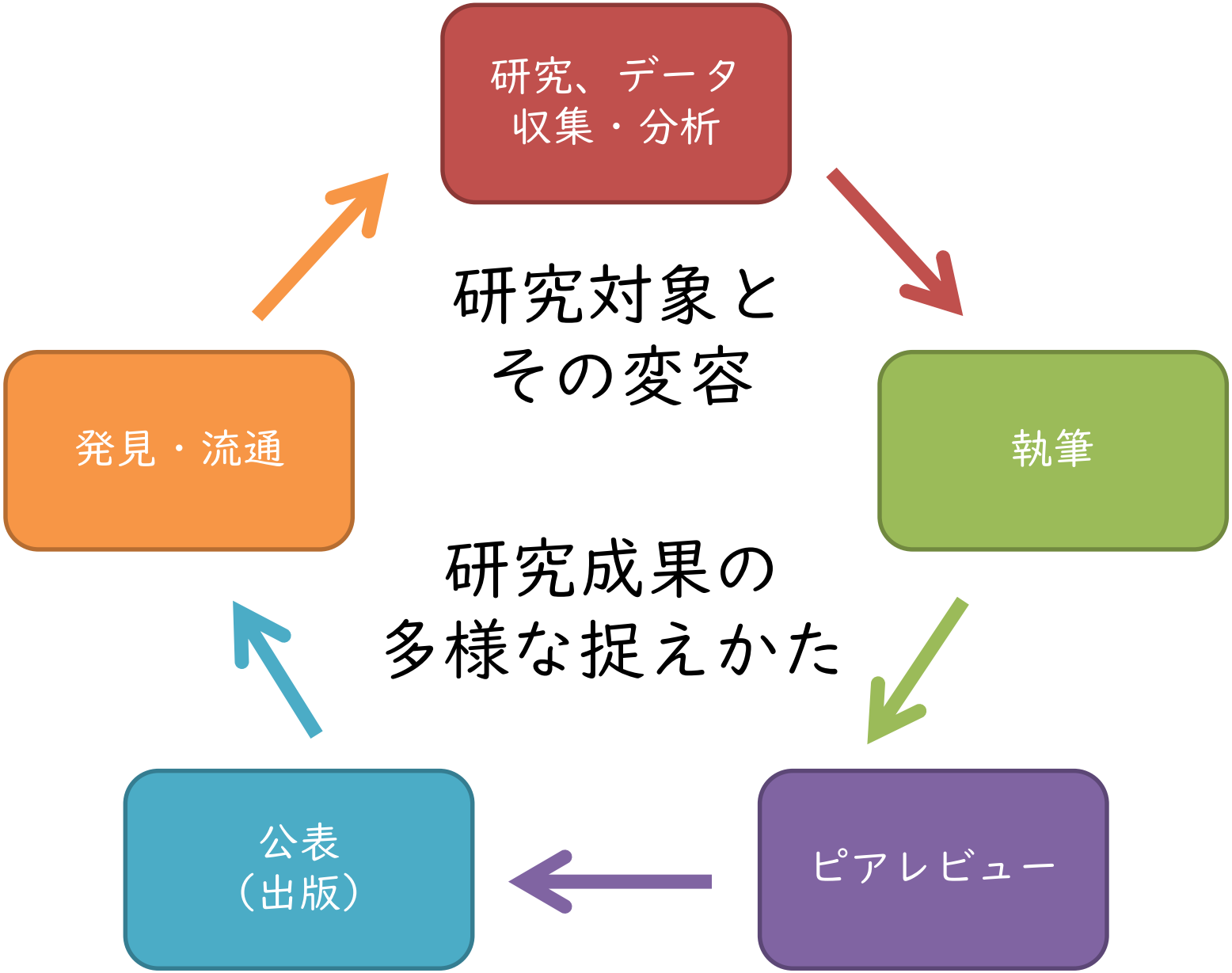
その他

- V 翻訳
- T その他

（出典：“Guidance on submissions.” Higher Education Funding Council for England, 2019, https://ref.ac.uk/publications-and-reports/guidance-on-submissions-201901/, (accessed 2024-07-07).）

参考　researchmap

- 0. プロフィール情報
- 1. 研究キーワード
- 2. 研究分野
- 3. 経歴
- 4. 学歴
- 5. 委員歴
- 6. 受賞
- 7. 論文
- 8. MISC
- 9. 書籍等出版物
- 10. 講演・口頭発表等
- 11. 担当経験のある科目（授業）
- 12. 所属学協会
- 13. Works（作品等）
- 14. 共同研究・競争的資金等の研究課題
- 15. 産業財産権
- 16. 社会貢献活動
- 17. メディア報道
- 18. 学術貢献活動
- 19. その他



（出典：Association of College and Research Libraries. “Scholarly Communication Toolkit.” 2024-05-22, https://acrl.libguides.com/scholcomm/toolkit, (accessed 2024-07-07).）

学術コミュニケーションと研究活動を取り巻く環境の変化

(1)　メディア

- 情報通信技術の発達とインターネットの高速化、高機能化
- 学術雑誌の電子化
- オープンアクセス（OA）
- オープンデータ
- オープンサイエンス
- デジタルライブラリ、デジタルアーカイブ

(2)　政策

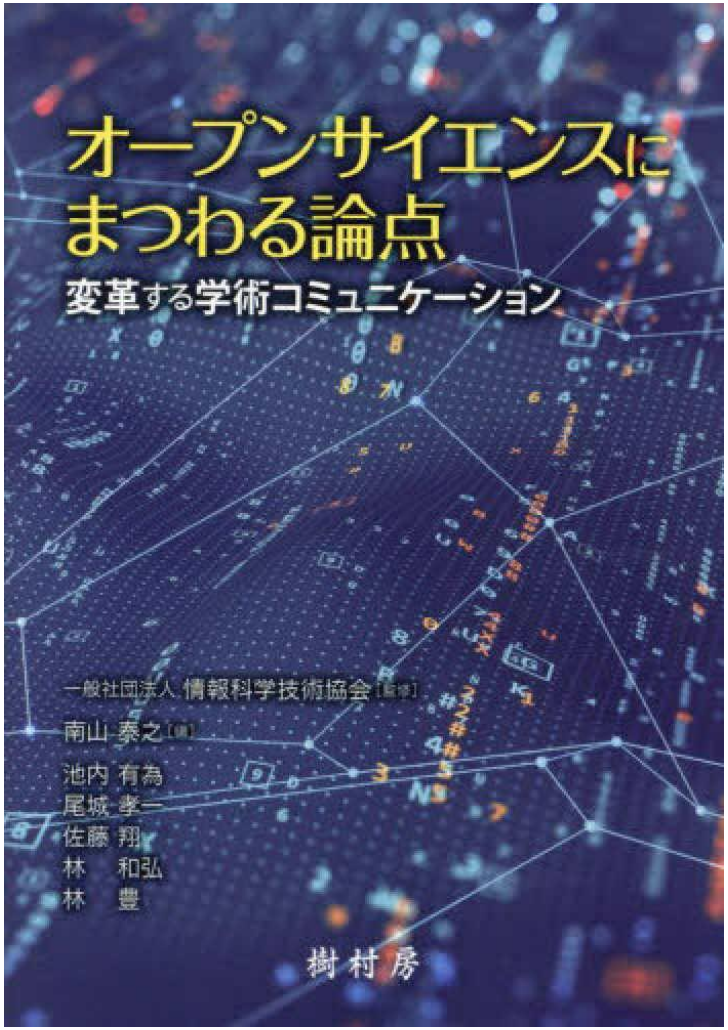
- OA、オープンサイエンスを推進する研究支援（研究助成）
- DX
- 研究評価

目次

項目	時間
学術（情報）コミュニケーションとは	20分
学術コミュニケーションと図書館サービス（事例）	15分
学術コミュニケーションと研究活動	20分
学術コミュニケーションにかかる最近の話題	15分
まとめ	5分

学術コミュニケーションにかかる最近の話題

- 政策
- オープンアクセス
- デジタル化
- 研究評価
- 多様性、公平性、包括性



南山泰之編，池内有為［ほか］著．オープンサイエンスにまつわる論点 ： 変革する学術コミュニケーション．樹村房，2023.

棚橋佳子著．ジャーナル・インパクトファクターの基礎知識 ： ライデン声明以降のJIF．樹村房，2022.

政策

- 第6期科学技術・イノベーション基本計画(2021年3月26日)
  - 統合イノベーション戦略2024(2024年6月4日)
- G7仙台科学技術大臣会合
  - G7 Science and Technology Ministers' Communique(2023年5月12-14日)
- 学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針（2024年2月16日）
- オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について(審議のまとめ)(2023年1月25日)
  - 「2030デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会

G7 Science and Technology Ministers' Communique（G7科学技術大臣コミュニケ）

1．科学研究における自由と包摂性の尊重及びオープン・サイエンスの推進

- G7は、FAIR原則に沿って、科学的知識並びに研究データ及び学術出版物を含む公的資金による研究成果の公平な普及による、オープン　・サイエンスの拡大のために協力する。
- G7は、公的資金による学術出版物及び科学データへの即時のオープンで公共的なアクセスを支援し、適切な科学的成果のより広範な共有のための学術出版における課題に対処する科学界の努力を支持する。

（出典：科学技術・イノベーション推進事務局．“G7科学技術大臣コミュニケ（仮訳）” 内閣府，2023，https://www8.cao.go.jp/cstp/kokusaiteki/g7_2023/230513_g7_kariyaku.pdf，（参照2024-07-07）.）

統合イノベーション戦略2024

3.（2）知の基盤（研究力）と人材育成の強化

③ 研究施設・設備の強化、オープンサイエンスの推進

（学術論文等のオープンアクセス化の推進）

公的資金による学術論文等の研究成果は国民に広く還元されるべきものであるが、その流通はグローバルな学術出版社等（以下「学術プラットフォーマー」という。）の市場支配の下に置かれ、学術雑誌の購読や学術論文の出版における大学、研究者等の経済的負担が増大している。そのため、「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針（2024年２月16日統合イノベーション戦略推進会議決定）」に基づき、2025年度新規公募分からの学術論文等の即時オープンアクセス実施に向けて、学術プラットフォーマーに対する大学主体の集団交渉体制の構築支援、学術論文等の機関リポジトリ等の情報基盤への掲載やシステム間連携の検討、研究成果発信のためのプラットフォーム整備・充実の支援を関係府省による連携の下、推進し、研究成果の国民への還元と地球規模課題の解決への貢献、我が国全体の購読料及びオープンアクセス掲載公開料（ＡＰＣ）の総額の経済的負担の適正化や研究成果の発信力向上を目指す。さらに、研究評価における定量的指標への過度な依存を見直すため、現状と課題を把握・分析しつつ、新たな評価やインセンティブ付与のためのシステムの確立と移行を目指す。

（出典：“統合イノベーション戦略2024” 内閣府，2024-06-04，https://www8.cao.go.jp/cstp/tougosenryaku/togo2024_zentai.pdf，（参照2024-07-07）.）

オープンアクセス

(1)　購読モデルからオープンアクセス出版モデルへの転換

- 移行契約、転換契約（transformative agreements）
- 国内の動き：　JUSTICE、Oxford University Press、Elsevier、Wiley、ACSなど

(2)　オープンアクセスと格差問題

- 「購読の壁」から「出版の壁」へ
- ダイヤモンドOA：　BOAI20など

(3)　プレプリント

- 新型コロナウイルス感染症とプレプリント
- Jxiv

「購読の壁」

学術論文：論文違法入手、昨年７２０万件　海賊版サイト利用　５年間で５．６倍

2023.06.06　東京朝刊　1頁　政治面　(全1,175字)

この記事を印刷

有料の学術論文をインターネット上に無料で公開する違法な海賊版サイトの利用が急増し、日本からのダウンロード数が２０２２年に延べ約７２０万件に上ったことが毎日新聞の調査で判明した。比較可能な１７年の５・６倍に当たる。論文の購読料高騰が背景にあるとみられるが、利用する研究者側の倫理も問われる。（３面にクローズアップ）

サイトの名称は「Ｓｃｉ－Ｈｕｂ（サイハブ）」。カザフスタンの研究者が１１年に開設したとされ、出版社と購読契約を結ぶ大学のアカウントを協力者から入手するなどして無断で論文を収集。２３年６月現在、８８００万本以上が公開され、誰でも無料で全文ダウンロードして閲覧できる。

著作権を侵害しており、正当な利益が出版社に還元されず学術誌発行が困難になる恐れがある。海外では出版社から損害賠償を請求されたり、ネット上の住所に当たるドメイン名を裁判所に差し押さえられたりしている。

毎日新聞はネット情報を保存するアーカイブサイトから、サイハブが２２年に公開した月別ダウンロード数を集計した。その結果、中国の入手件数が延べ約４億６７４１万件と最も多く、米国▽ロシア▽ブラジル▽インド－－と続いた。

日本は約７２０万件で、国別では１４位。琉球大などのチームの調査によると、１７年は約１２７万件（２８位）だった。５年間で５・６倍に増えた計算になる。

背景には論文購読料の高騰があるとみられる。文部科学省などによると、２１年度に国公私立大が支出した購読料は電子版だけで約３２９億円と、０４年度の５倍以上に膨らんだ。一方で、大学が国から受け取る運営費交付金は削減が続いており、千葉大や琉球大など出版社との購読契約を縮小する大学も出ている。

「出版の壁」

The push for open access is making science less inclusive

Researchers in developing countries could be frozen out by high article charges unless wider publishing reform is undertaken, say four Brazilian researchers

August 31, 2021

Alicia Kowaltowski, Marcus Oliveira, Ariel Silber Hernan Chaimovich

Twitter: @AJKowaltowski

It is hard to argue against the view that research developed predominantly through public funding should be openly accessible to everyone.

Source: Getty (edited)

Of course, it was always possible to request a copy of a paper from the authors, but while that facilitated contact between readers and authors, it was inconvenient. Nor are preprints an adequate substitute. Their quality is highly variable, and their sheer quantity is such that even solid work typically attracts attention only after it is peer-reviewed and published in a recognised periodical.

FEATURED JOBS

Post-doctoral Fellow in the Department of Earth Sciences
THE UNIVERSITY OF HONG KONG

Digital Systems Officer
FLINDERS UNIVERSITY

Senior Lecturer
FLINDERS UNIVERSITY

Lecturer/Senior Lecturer in Computer Science: Programming Languages
UNSW SYDNEY

Manager, Public Relations and Publication
SINGAPORE UNIVERSITY OF SOCIAL SCIENCES

（出典：Kowaltowski, Alicia et al. “The push for open access is making science less inclusive.” Times Higher Education. 2021-08-31, https://www.timeshighereducation.com/opinion/push-open-access-making-science-less-inclusive, (accessed 2024-07-07).）

「出版の壁」

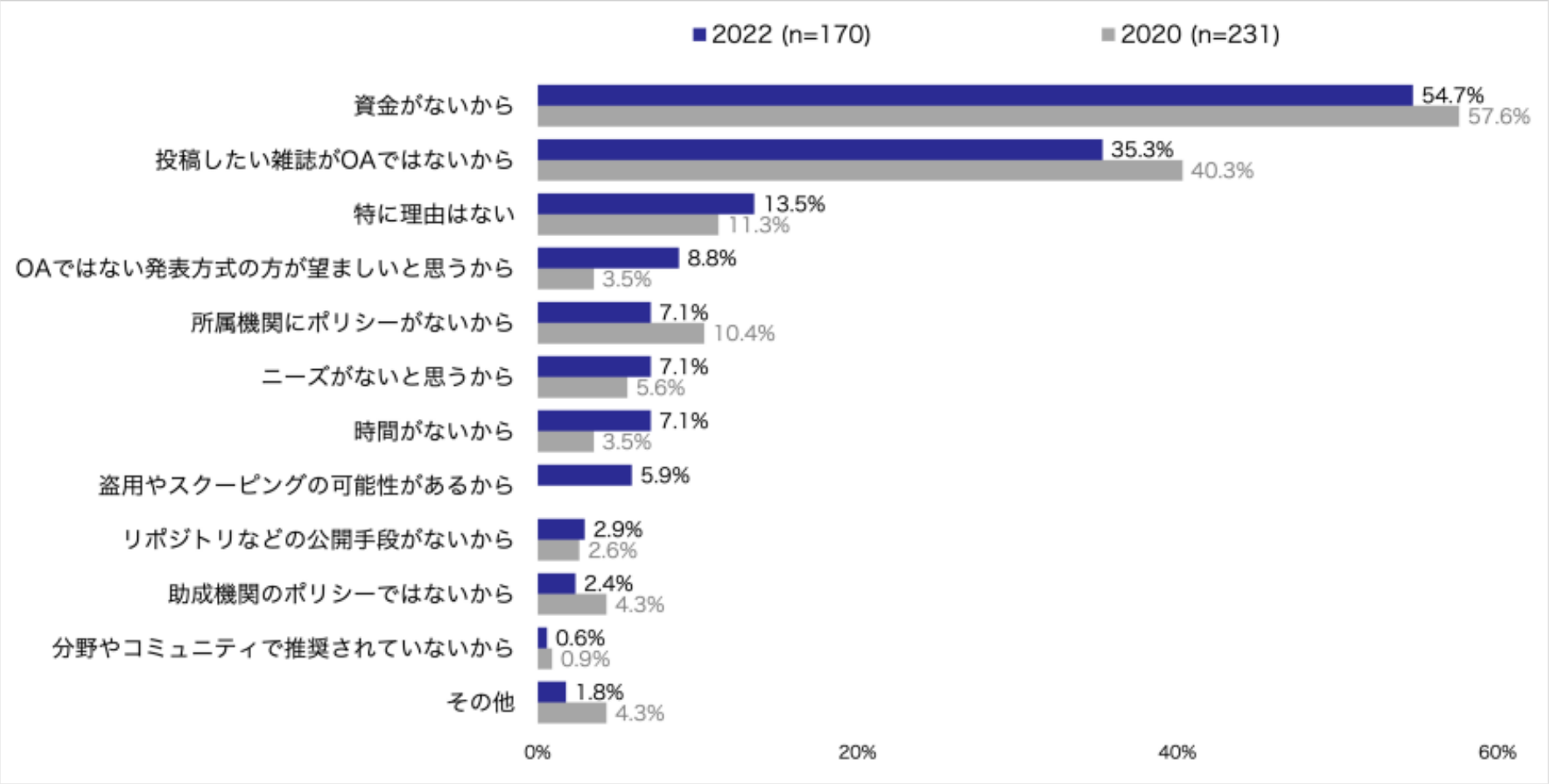


図 56　論文の未公開理由（2020/22 年，複数回答）

（出典：池内有為，林和弘．“論文のオープンアクセスとプレプリントに関する実態調査2022 ： オープンサイエンスにおける日本の現状”．文部科学省科学技術・学術政策研究所，2023．http://hdl.handle.net/11035/00006768，（参照2024-07-07）．）

デジタル化

- デジタル技術がもたらすもの
- 研究
  - デジタル人文学

- 学習
  - 「合理的調整」（合理的配慮）（『ハンチバック』の著者・市川沙央さんのことば）

- 教育
  - 大学教員と介護

デジタル化

- デジタル技術でこぼれおちるもの

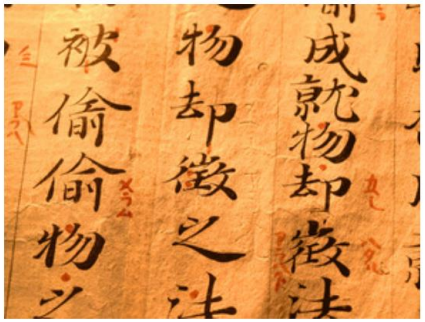
朝日新聞デジタル ＞ 記事

広島）広島大が「角筆資料室」を新設

有料会員記事

北村浩貴　2020年8月30日 9時00分

シェア　ツイート list　ブックマーク 4　スクラップ　メール　印刷



「却徴之」の右側に、角筆による「カヘシアラハス」の書き込みがある文献資料。広島大学の中央図書館に設置された「角筆資料室」に納められている＝2020年8月27日午前11時49分、広島県東広島市鏡山、北村浩貴撮影

木や竹の先端をとがらせてつくった筆記具「角筆（かくひつ）」。広島大はこの夏、角筆研究の第一人者、小林芳規・同大名誉教授（国語学）が収集・寄贈した文献を集めた資料室を、東広島キャンパスの中央図書館に新設した。新型コロナウイルスの影響で、当面は学内のみで利用される。

角筆は、墨などをつけずに資料に書き込んで爪痕のようにくぼませ、字や絵などを描く。方言や言語の読み方などを書き込むのに用いられ、当時の発音や解釈などの解明につながるという。

同大によると、小林名誉教授は1961年、漢籍資料から角筆の書き入れを初めて発見。国内でこれまで確認された文献は約3350点にのぼる。中国・敦煌の文書や朝鮮半島の古代「新羅」の経典、さらに中東のコーランなどにも角筆の書き入れがみられ、世界的な広がりが確認されているという。

小林名誉教授が昨年度、文化功労者に選ばれたのを機に、資料室の設置が決まった。現在は、江戸時代の文献を中心に293点943冊を所蔵。小林名誉教授は「研究は緒についたばかり。世界的規模の新しい研究が生まれる可能性があり、角筆資料室が中心的な役割を担うことを期待している」とのコメントを寄せた。（北村浩貴）

（出典：北村浩貴．広島大が「角筆資料室」を新設．朝日新聞デジタル．2020-08-30，https://digital.asahi.com/articles/ASN8Y7QKWN8YPITB009.html，（参照2024-07-07）．）

研究評価

- 政策や研究評価指標が研究成果にもたらす影響

表３　各回の研究評価事業に際して提出された研究業績における論文の比率（%）[3)]

	RAE1992	RAE1996	RAE2001	RAE2008	REF2014
全分野	51.0	62.0	69.8	75.3	81.1
社会科学全分野	38.2	49.0	65.0	75.5	81.5
商学・経営学	47.8	59.0	80.2	90.4	95.6

（出典：佐藤郁哉．英国における研究評価事業：制御不能の怪物（モンスター）か苦い良薬か？．情報の科学と技術．2017，67(4)，p.167，https://doi.org/10.18919/jkg.67.4_164，（参照2024-07-07）.）

多様性、公平性、包括性

(1)　地域

- ポストコロニアル時代のオープンアクセス
- 図書館コレクションの多様性

(2)　国際共通言語としての英語

- 日本語で学術雑誌を発行する意義
- 「日本」を対象とする研究と研究成果発表

(3)　ジェンダー

- ジェンダー格差
- ジェンダーと典拠

ジェンダー

- ジェンダー格差

朝日新聞デジタル ＞ 記事

（ＴｈｉｎｋＧｅｎｄｅｒ）論文の女性著者、減少　コロナ禍が影響、家事負担に偏り

有料会員記事

2021年3月23日 16時30分

シェア　ツイート list　ブックマーク 0　スクラップ　メール　印刷

コロナ禍の影響で、女性研究者が発表する論文の割合が減っているという報告が相次いでいる。休校や外出自粛で増えた子育てや家事の負担が女性研究者に偏っているためで、新型コロナ の感染拡大は研究の世界の ジェンダー 格差も広げている。

デンマーク ・オーフス大の研究者らは、医学雑誌６２９誌を対象に、２０２０年１～６月に掲載された米国発の新型コロナ関連の論文１８９３本と、１９年に発表された米国発の全論文８万５３７３本を比べた。

うち女性研究者が、研究に最も貢献した筆頭著者である割合は１４％減っており、特に感染者が急増した３、４月の減少が大きかった。論文ごとの女性著者の割合も、５％減っていた。

研究チームは「コロナの感染拡大がジェンダー格差を広げた可能性があり、医学研究は大きな課題に直面している」と指摘した。

経済学の分野でも同じ傾向が出ている。英ケンブリッジ大の研究者らは、米国や英国の研究機関に投稿された論文について、１５～１９年と２０年のそれぞれ１～４月分を比べた。

女性著者が占める割合はいずれも約２０％だったが、新型コロナに関する論文に限定す

（出典：藤波優．(Think Gender)論文の女性著者、減少　コロナ禍が影響、家事負担に偏り．朝日新聞デジタル．2021-03-21，https://digital.asahi.com/articles/DA3S14844126.html，(参照2024-07-07)．）

- ジェンダーと典拠

ホーム » カレントアウェアネス-E » 2021年　（通号No.406-No.427 ： E2341-E2460） » No.416 （E2400-E2405） 2021.07.08

E2405 - 学術論文における著者名表記の変更：主に性自認をめぐって

カレントアウェアネス-E

No.416 2021.07.08

E2405

学術論文における著者名表記の変更：主に性自認をめぐって

調査及び立法考査局行政法務課・藤戸敬貴（ふじとよしたか）

●氏名の変更と著者名表記

氏や名は，必ずしも不変のものではない。氏については，例えば婚姻の際，日本のように夫婦同氏制を採用する国では一方当事者の氏が変わるし，同氏・別氏選択制を採用する国であっても同氏を選択したカップルは一方当事者の氏が変わる。名についても，変更の原因となる事情はいくつか考えられる。自分自身の性別に関する認識，すなわち性自認（Gender Identity）は，そのような事情のひとつである。

例えば，自認する性別と身体的性別とが一致しない場合（トランスジェンダー）や，自認する性別又は身体的性別が男女という二元的枠組にぴったり当てはまらない場合（ノンバイナリー）において，出生時に付与された名が自認する性別にふさわしくないと考えるとき，名を変更する手続がとられる（法的性別の変更については拙稿を参照。）。

ところで，学術出版において著者名が重要なメタデータのひとつであることは多言を要しないが，論文等の出版後に何らかの事情で氏又は名が変更された場合，著者名表記をどのように扱うかが問題となる。同一の著者であるにもかかわらず，氏又は名の変更の前後で著者名表記が一致しないという状況が生じ，著者の同一性が判断しにくくなってしまうからである。また，性自認等のプライベートな理由による名の変更の場合は，特有の配慮が必要である。以上の問題について，当事者らの要望を受け，出版界において対応が図られつつある。

（出典：藤戸敬貴．E2405 - 学術論文における著者名表記の変更：主に性自認をめぐって．カレントアウェアネス-E．2021，416，https://current.ndl.go.jp/e2405，(参照2024-07-07)．）

まとめ

- 学術コミュニケーションは研究活動の一部である。
- 学術コミュニケーションは多様な要素から構成され、それぞれで求められる知識や技術は幅広い。
- 学術コミュニケーションには多様な関係者が存在する。
- 研究成果は多様である。
- 研究活動は政策や社会情勢など、それを取り巻く環境から大きな影響を受ける。
- これらを理解し、全体を俯瞰して、大学図書館サービスを開発する必要がある。

みなさんの今後のご活躍を期待しています

ご清聴ありがとうございました